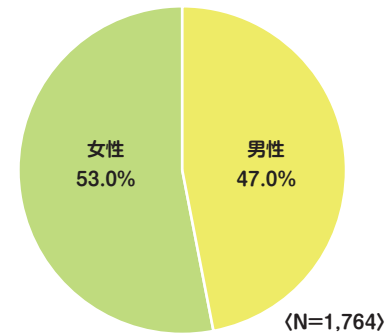
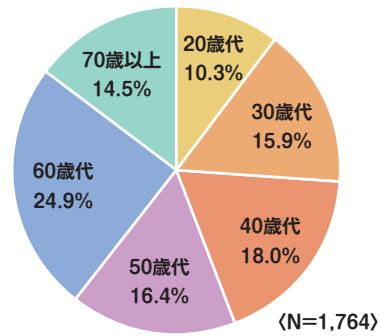


調査対象の構成

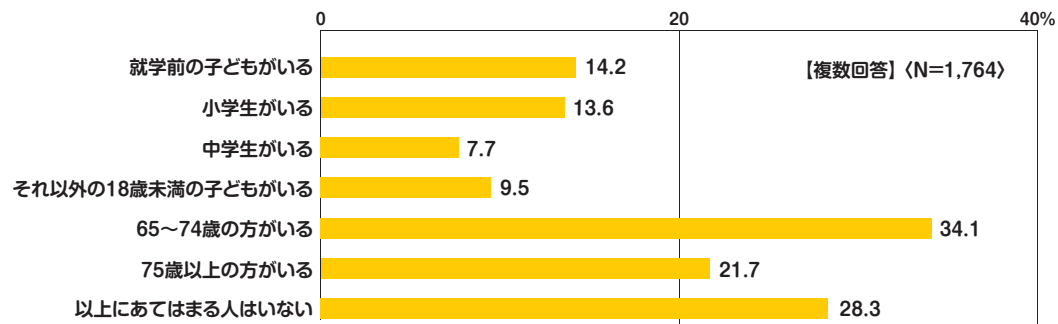
〈性別〉



〈年齢〉



〈同居家族〉



「久留米市民意識調査」について

久留米市では、市民の皆さんの意向や要望などを把握するため、昭和52年から毎年、市民意識調査を実施しております。第40回となる平成28年度では、「行政施策」「地域コミュニティ活動」「防災対策」「超高齢社会のまちづくり」について、ご意見をうかがいました。詳細な結果と分析は報告書にまとめ、今後の市政運営の基礎データとして活用します。

調査の概要

◇調査地域	久留米市全域	◇調査対象者	久留米市に在住する満20歳以上の人
◇サンプル数	2,000	◇抽出方法	住民基本台帳からの二段無作為抽出法
◇実査方法	郵送法併用の留置法	◇実査期間	平成28年7月22日～8月5日
◇回収数(率)	1,764票(88.2%)	◇調査結果の分析	山下永子(九州産業大学 経営学部 准教授) 武藤桐子(香蘭女子短期大学 非常勤講師)
◇調査の企画と実施	〈企画〉久留米市協働推進部 広聴・相談課 〈実施〉西日本新聞社 お客さまセンター		

※回答は、回答者数を基数とした百分率(%)で表し、小数点以下第二位を四捨五入しています。このため、百分率の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答ができる設問では、回答率が100%を超えることがあります。
 ※文中の選択肢の表示は「 」で行い、選択肢のうち二つ以上のものを合計して表す場合は「 」として表示しています。
 ※数表・図表に示すNは比率計算上の基数(標本数)で、nは回答者数です。

■発行:平成29年3月

■お問い合わせ:

《編集・発行/調査主体》久留米市 協働推進部 広聴・相談課
 久留米市城南町15番地3 (TEL)0942-30-9015 (FAX)0942-30-9711
 E-Mail: sodan@city.kurume.fukuoka.jp



第40回(平成28年度)

久留米市民意識調査 調査結果の概要



行政施策

【住みやすさ】

久留米市は住みやすいと感じている人は毎年8割を超え、高い水準で推移。特に子どもがいる世帯での評価が高くなっています。

久留米市の住みやすさでは、『住みやすい』と感じる人は83.3%で、毎年8割を超え、高い水準で推移しています。一方で『住みにくい』と感じる人は5.1%と減少しています。

同居家族別にみると、18歳未満の子どもがいる世帯で『住みやすい』の割合が高くなっています。

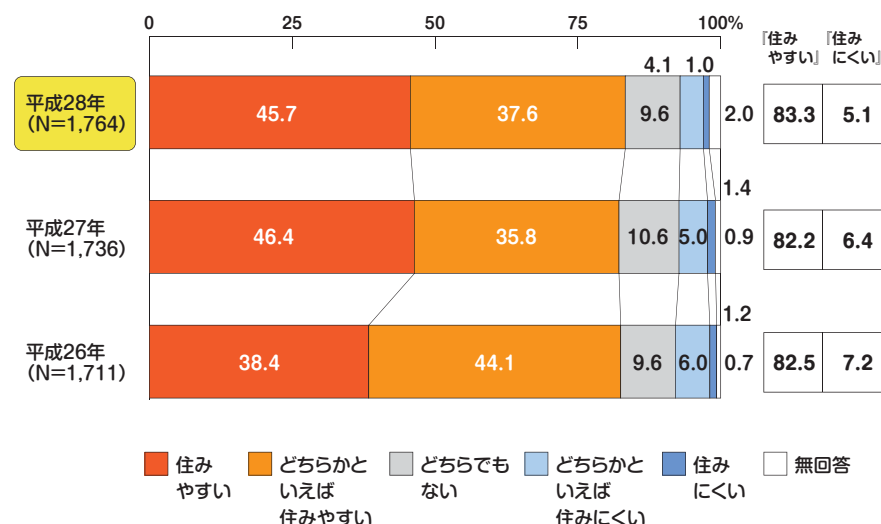
住みやすい理由では、「買い物や飲食など日常生活に便利」が48.3%で最も高く、「緑や自然が多い」「医療や福祉が充実している」も4割を超えています。

18歳未満の子どもがいる世帯では、「通勤・通学に便利」や「子育て環境がよい」の評価が特に高くなっています。

一方、住みにくい理由では、「買い物や飲食など日常生活に不便」「治安がよくない」がいずれも31.1%で最も高くなっています。

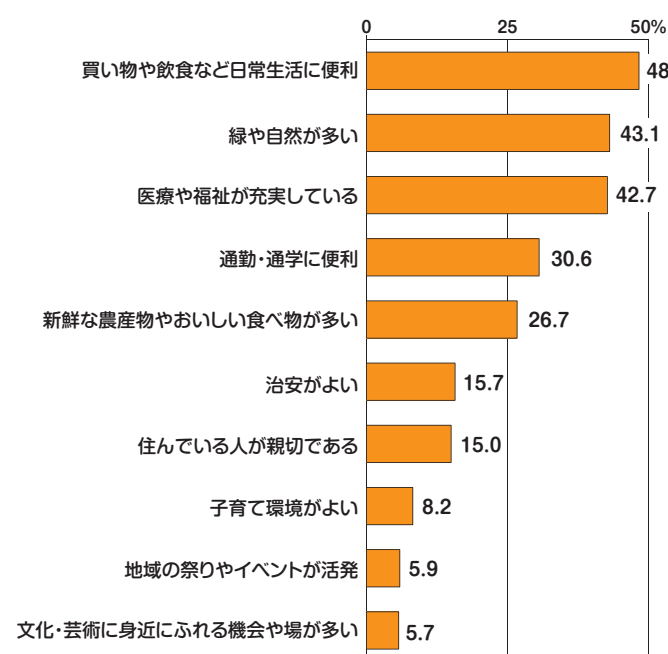
久留米市の住みやすさ

N=1,764



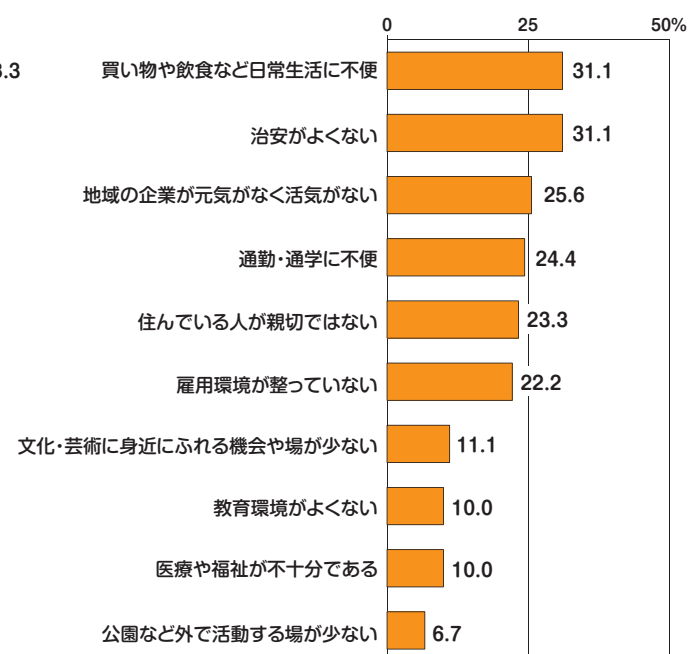
住みやすいと思う理由(上位10項目)

【回答は3つまで】 n=1,470



住みにくいと思う理由(上位10項目)

【回答は3つまで】 n=90



【定住意向】

久留米市内に住み続けたいと思う人の割合が約8割と昨年度より上昇。年齢が上がるほど住み続けたい人の割合が高くなる傾向にあります。

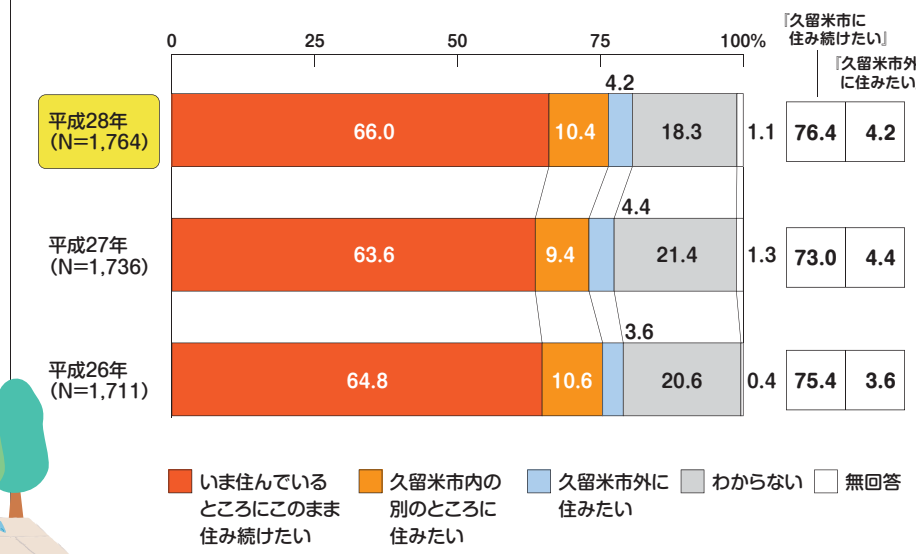
久留米市への定住意向をたずねたところ、『久留米市に住み続けたい』が昨年度より上昇して76.4%、「わからない」が18.3%でした。『久留米市に住み続けたい』割合は、7年連続で7割を超えています。

年齢別にみると、『住み続けたい』人の割合が30歳代以上で7割を超え、60歳代で85.2%、70歳以上で91.4%となっています。「わからない」は20歳代では35.2%、30歳代から50歳代でも2割を超えています。



久留米市での定住意向

N=1,764



【愛着度】

久留米市に愛着がある人は毎年約8割という高い水準で推移。居住年数が長いほど愛着度は高くなる傾向にあります。

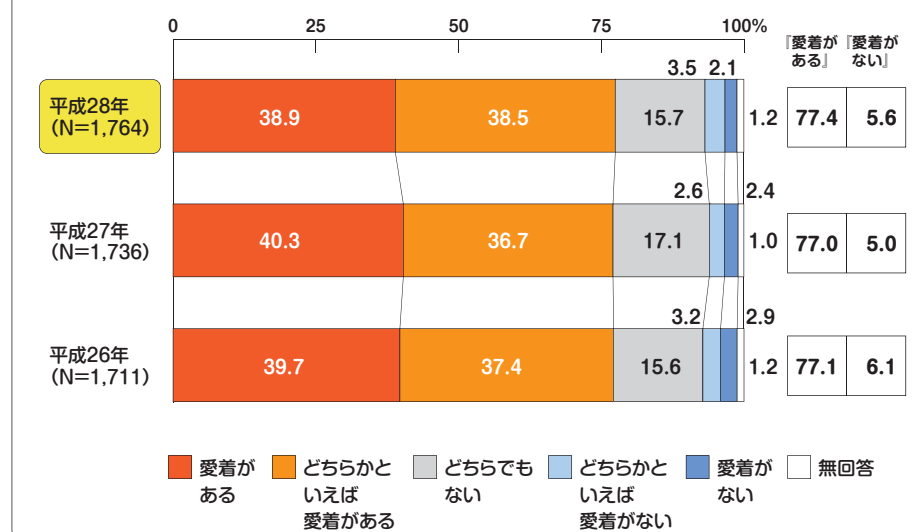
久留米市への愛着では、「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた『愛着がある』人は77.4%。毎年約8割と高い水準で推移しています。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど愛着度は高くなり、70歳以上では8割を超えています。

居住年数別では、居住年数が長い人ほど市への愛着が高くなる傾向にあります。5年未満の人では「どちらでもない」が29.8%と高くなっています。

久留米市への愛着

N=1,764



地域コミュニティ活動

地域の自治会に「加入している」人は約7割。年齢が低い層や単身世帯で加入率が低い傾向にあります。

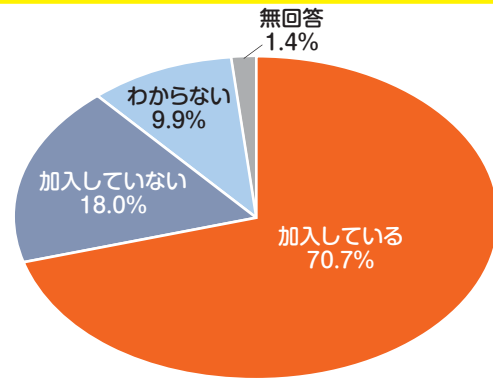
地域の自治会に「加入している」人は70.7%で、5年前に実施した調査と比較してほぼ同じ状況でした。

年齢別にみると、「加入している」人は20歳代で27.5%、30歳代で53.0%と年齢が低い層で、家族構成別でみると、単身世帯で47.0%と加入率が低くなっています。

加入して良かったと思うことは「地域の情報が手に入る」「住民が協力し合っ問題が解決することができる」「地域の人と親交が深まる」が4割を超えて高くなっています。

地域の自治会への加入状況

N=1,764



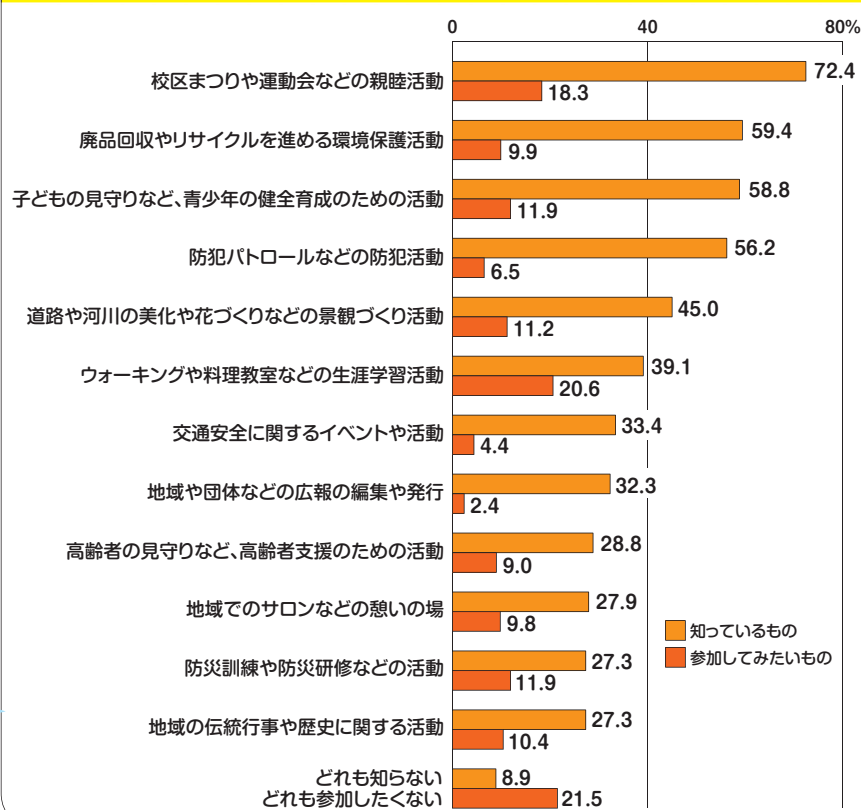
知っている地域活動では「校区まつりや運動会などの親睦活動」が約7割、参加してみたい活動は「ウォーキングや料理教室などの生涯学習活動」が約2割で1位。

知っている地域活動では「校区まつりや運動会などの親睦活動」が72.4%で最も高く、参加してみたい地域活動では「ウォーキングや料理教室などの生涯学習活動」が20.6%で最も高くなっています。

参加してみたい地域活動を性別にみると、女性では「ウォーキングや料理教室などの生涯学習活動」が最も高く、男性で特に59歳以下では「どれも参加したくない」が最も高くなっています。家族構成別に見ると、18歳未満の子がいる世帯で「校区まつりや運動会などの親睦活動」が最も高く、特に就学前や小学生がいる世帯では3割を超えています。

知っている地域活動・参加してみたい地域活動

【複数回答】 N=1,764



防災対策

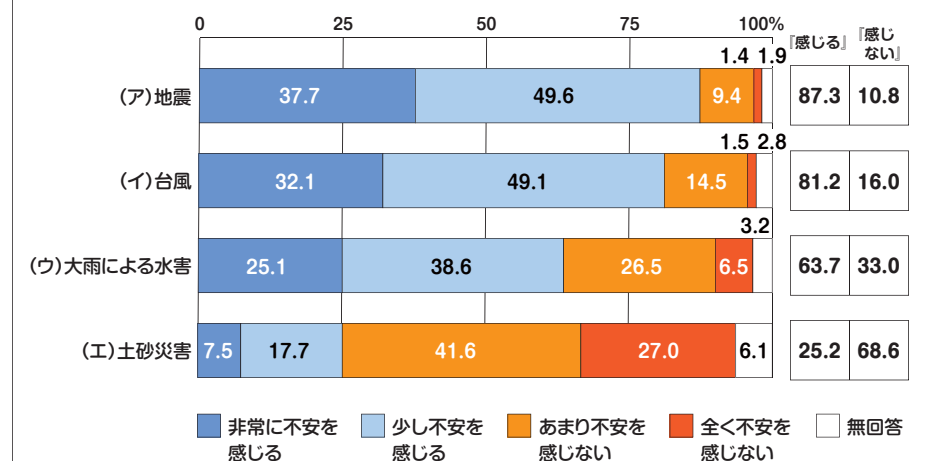
「地震」と「台風」への不安を感じる人が8割以上。「大雨による水害」と「土砂災害」への不安は地域差が大きい。

住んでいる地域で災害にあうかもしれない不安感をたずねたところ、「地震」と「台風」で8割を超える人が不安を感じており、「大雨による水害」でも不安感は6割を超えていました。

災害による不安感は、久留米市内でも地域によって差が見られ、「大雨による水害」では筑後川流域の地域で他の地域より高い傾向になっており、「土砂災害」では耳納山麓の地域で他の地域より高い傾向になっています。

住んでいる地域で災害にあうかも知れない不安

N=1,764



「安全な避難経路や避難所の整備」への要望が52.6%と最も高くなっています。

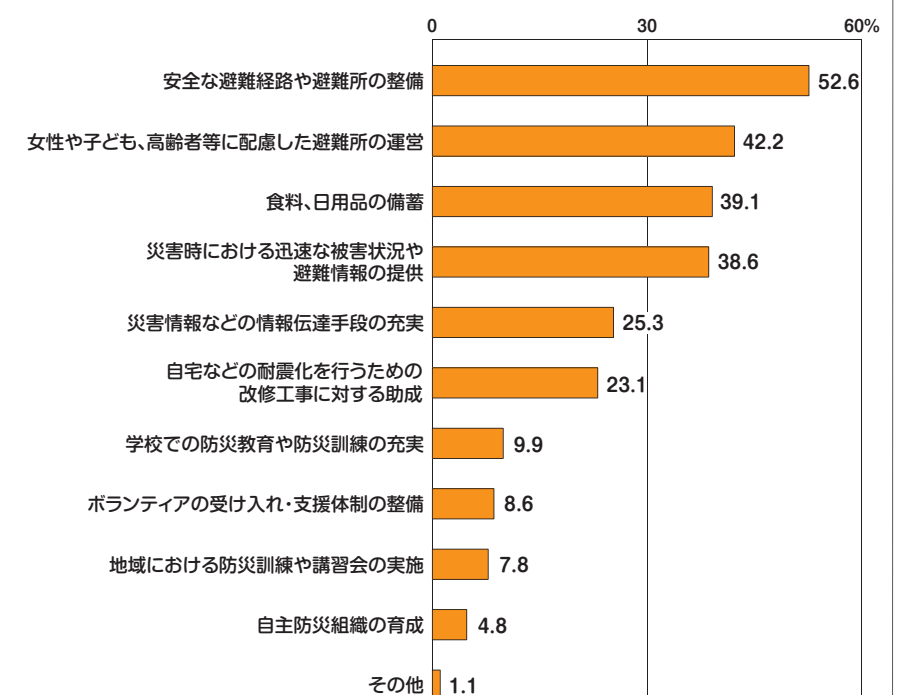
今後、市が力を入れてほしいと思う防災対策では、「安全な避難経路や避難所の整備」が52.6%で最も高く、「女性や子ども、高齢者等に配慮した避難所の運営」「食料、日用品の備蓄」「災害時における迅速な被害状況や避難情報の提供」が約4割で上位に続いています。

「女性や子ども、高齢者等に配慮した避難所の運営」を性別・年齢別にみると、20~30歳代女性や70歳以上の男女で最も高くなっています。同居家族別に見ると、就学前や小学生の子ども、75歳以上の方がいる世帯でも他の世帯より高い傾向にあります。



今後、力を入れてほしい防災対策

【回答は3つまで】 N=1,764



高齢期の仕事

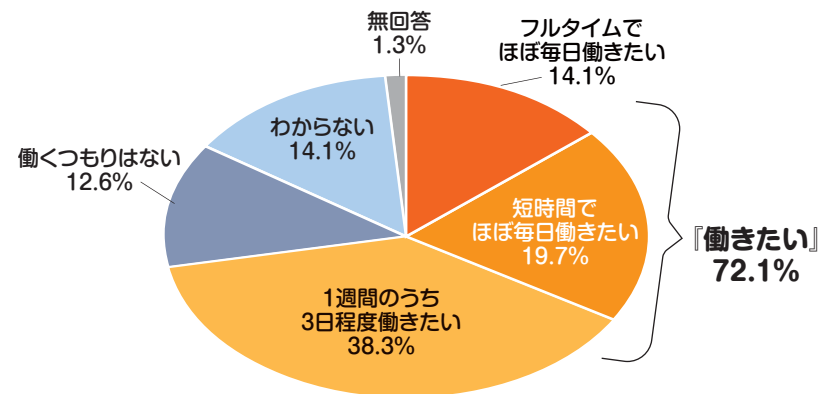
7割以上の方が60歳以降も働きたいと思っています。働き方では「1週間のうち3日程度」が38.3%で最も高くなっています。

60歳以降にどのような働き方(収入を伴う)をしたいか(収入を伴う)をしたかたずねたところ、何らかの形で「働きたい」と思っている人は7割を超えていました。働き方では「1週間のうち3日程度」が38.3%で最も高く、「フルタイムでほぼ毎日」は14.1%でした。

年齢別にみると40歳代と60～64歳で、「働きたい」が8割を超えて高くなっています。職業別にみると給与所得者(常勤)では「フルタイム」、パート・アルバイトと学生では「1週間のうち3日程度」がそれぞれ他の職業より高く、現在と同じ働き方を続けたい人が多いことがうかがえます。

60歳以降にどのような働き方をしたいか

N=1,764



高齢者の就労を推進するために「多様な働き方ができる企業の環境整備支援」への要望が51.6%で最も高くなっています。

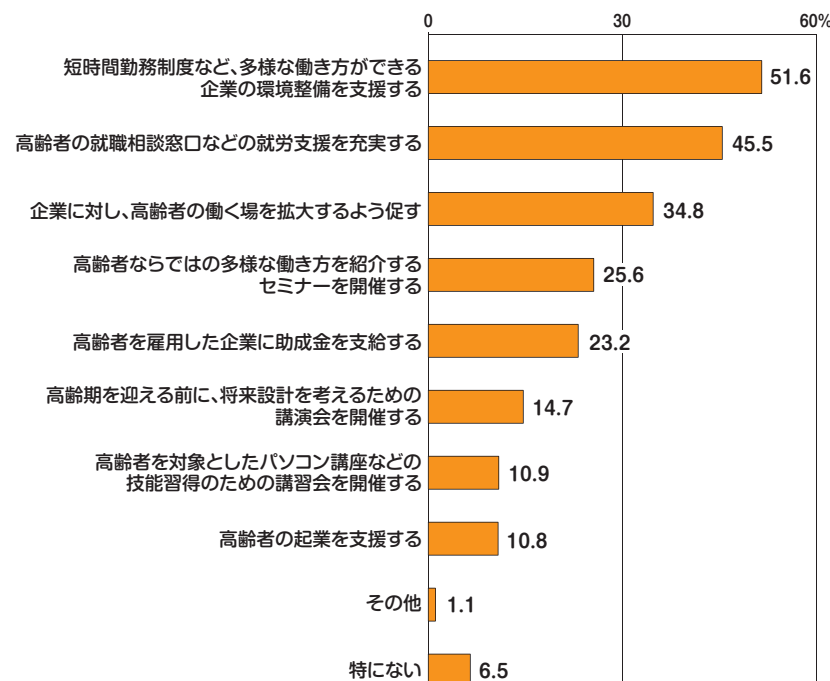
高齢者の就労を推進するために重要だと思うことでは、「多様な働き方ができる企業の環境整備を支援」が51.6%で最も高く、「高齢者の就職相談窓口などの就労支援を充実」「企業に対し、高齢者の働く場を拡大するよう促す」が上位になっています。

職業別にみると、給与所得者、パート・アルバイト、学生、専業主婦(夫)では「多様な働き方ができる企業の環境整備を支援」が5割後半で最も高くなっていますが、パート・アルバイトでは「高齢者の就職相談窓口などの就労支援を充実」も5割を超えて他の職業より高くなっています。



高齢者の就労を推進するために重要だと思う取り組み

【回答は3つまで】 N=1,764



健康づくり

高齢期になっても気軽に続けられる健康づくりとして、ラジオ体操に関心がある人は50.2%、ウォーキングに関心がある人は72.3%。

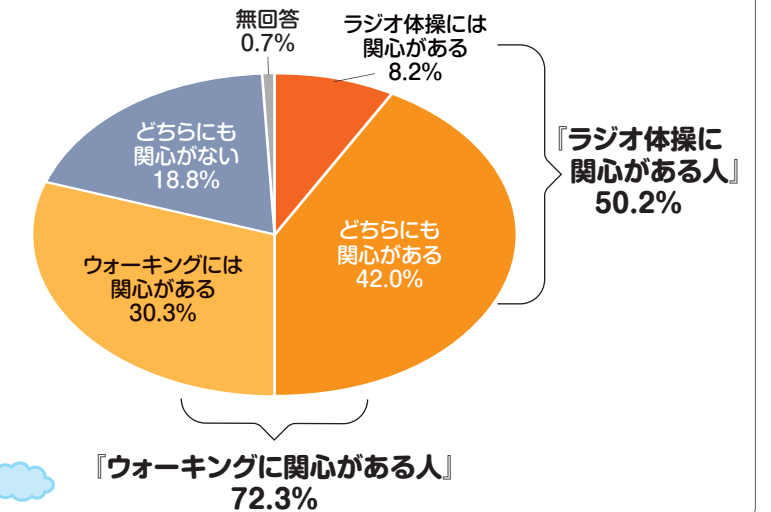
気軽に続けられる健康づくりの方法としてラジオ体操に「関心がある」人は50.2%、ウォーキングに「関心がある」人は72.3%で、「どちらにも関心がない」人は18.8%でした。

性別にみると、ラジオ体操もウォーキングも女性の方が男性より「関心がある」が高く、特にラジオ体操では男性より15.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、ウォーキングへの関心はどの年齢層でも「関心がある」が7割を超えて高くなっていますが、ラジオ体操は、年齢が高くなるほど「関心がある」が高い傾向にあります。

ラジオ体操、ウォーキングへの関心度

N=1,764



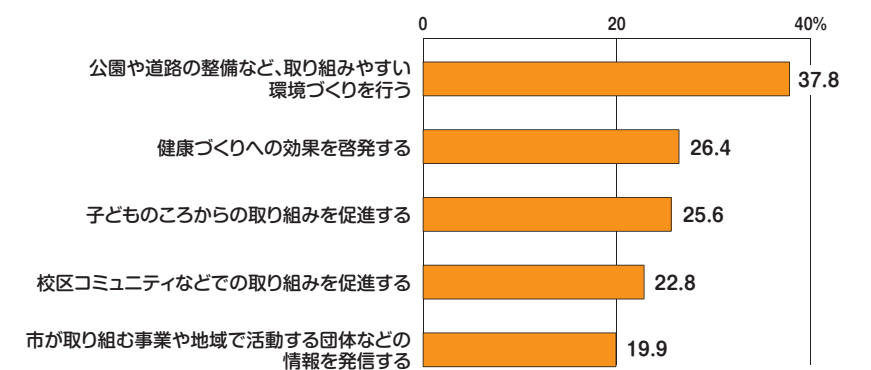
「公園や道路の整備など、取り組みやすい環境づくりを行う」への要望が37.8%で最も高くなっています。

「公園や道路の整備など、取り組みやすい環境づくりを行う」が37.8%で最も高くなっています。環境づくりへの要望は、特にウォーキングに関心がある人で高く、ウォーキングの普及促進を図るうえでは、街路灯や歩道の整備など道路の安全対策を進めることが求められています。

また、子育て世代である20～40歳代では「子どものころからの取り組みを促進する」が高くなる傾向にあります。身近な地域において、子どものころから、あるいは家族でラジオ体操やウォーキングに取り組めるような仕組みを導入し、若い年代の関心を高めることが普及につながるようです。

ラジオ体操やウォーキングを市民にもっと普及させるために重要だと思う取り組み(上位5項目)

【複数回答】 N=1,764



文化芸術活動

高齢期になっても鑑賞したい文化芸術の分野は「音楽」が48.9%、活動したい分野は「生活文化(茶・華道など)」が25.0%で1位。

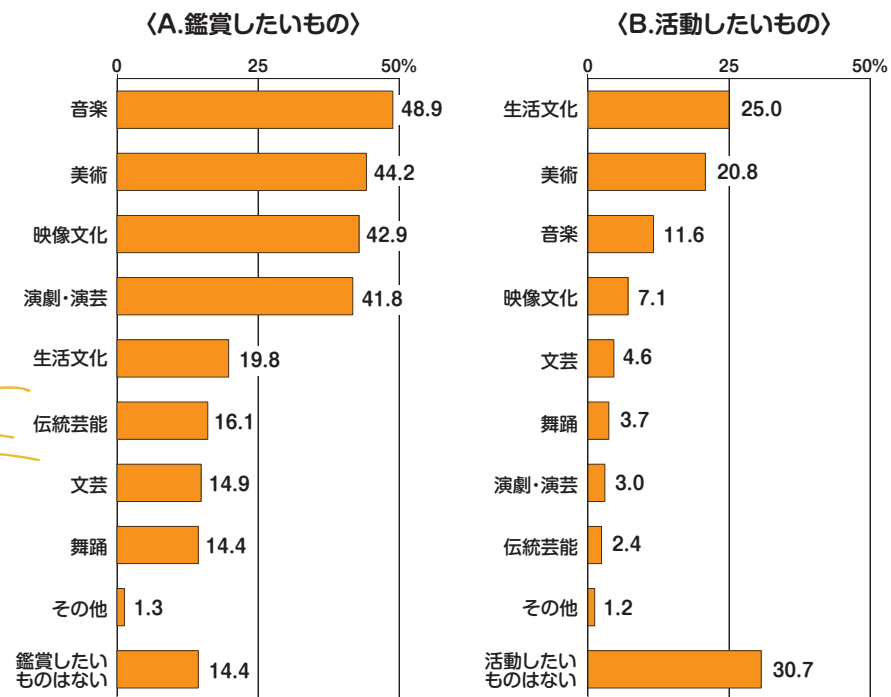
鑑賞したいものでは「音楽」が48.9%で最も高く、「美術」「映像文化」「演劇・演芸」が4割を超えて上位になっています。活動したいものでは「生活文化」が25.0%で最も高く、「美術」も2割を超えて上位になっています。

性別にみると、鑑賞意向、活動意向ともにほとんどの分野で男性より女性が高くなっています。特に、鑑賞意向では「音楽」「演劇・演芸」「舞踊」「生活文化」で10ポイント以上、活動意向では「生活文化」で21.5ポイント女性は男性より高くなっています。



高齢期になっても鑑賞・活動したい文化芸術

【複数回答】 N=1,764



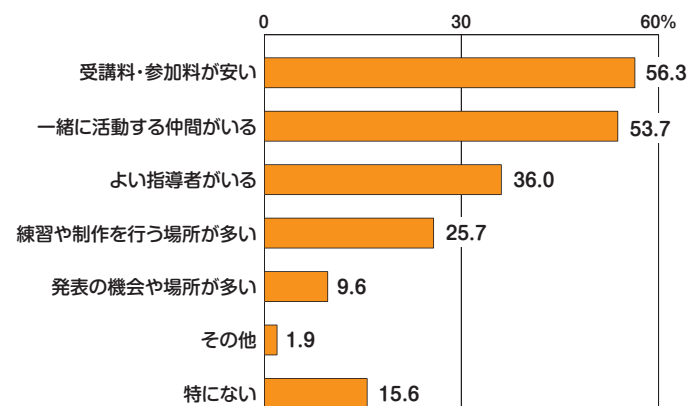
文化芸術活動をより長く続けていくために必要なことは「受講料・参加料が安い」「一緒に活動する仲間がいる」が5割を超えて高くなっています。

「受講料・参加料が安い」「一緒に活動する仲間がいる」が5割を超えて高くなっています。

性別・年齢別にみると、「受講料・参加料が安い」は30~50歳代の女性で高く、「一緒に活動する仲間がいる」は男女とも年齢が低い層で高くなっています。

文化芸術活動を長く続けていくために必要なこと

【複数回答】 N=1,764



生涯学習活動

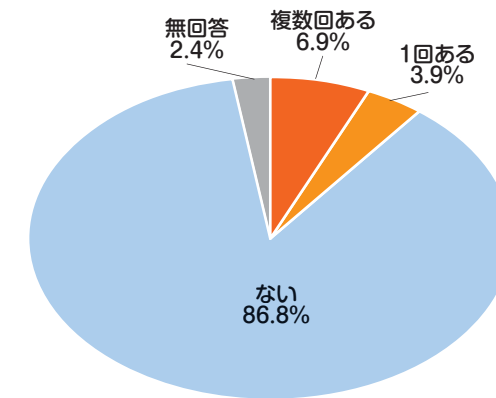
この3年間に生涯学習センターで実施している講座を受講したことがある人は10.8%。

この3年間で生涯学習センターで実施している講座を受講したことが「複数回ある」人が6.9%、「1回ある」人が3.9%で、受講経験率は10.8%でした。

性別・年齢別にみると、男女とも年齢が上がるほど受講経験率が高くなる傾向にあり、特に70歳以上では男女とも約2割となっています。女性は20歳代以外では1割を超えており、すべての年齢層で男性より高くなっています。

生涯学習センターでの受講経験

N=1,764



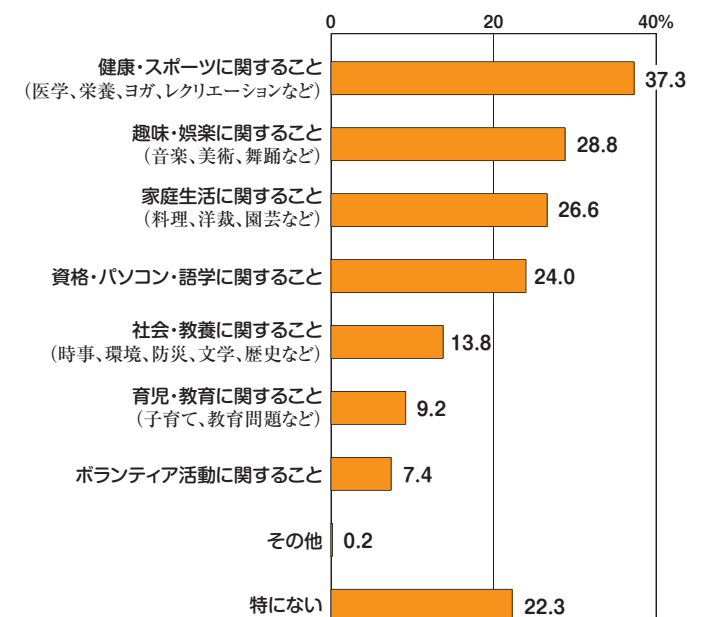
受講してみたい講座は「健康・スポーツに関すること」が37.3%で1位。

今後、受講してみたい講座では、「健康・スポーツに関すること」が37.3%と高く、「趣味・娯楽に関すること」「家庭生活に関すること」が上位に続いています。

性別・年齢別にみると、男性では、30歳代で「趣味・娯楽」「家庭生活」「育児・教育」「資格・パソコン・語学」、50歳代で「健康・スポーツ」、女性では、20・30歳代で「育児・教育」、30~50歳代で「健康・スポーツ」が他の年齢層より高くなっていますが、20・60歳代男性と70歳以上女性では「特にない」が3割を超えています。

生涯学習センターで受講してみたい講座の分野

【複数回答】 N=1,764



高齢者支援活動

最近5年間で高齢者を支援するボランティアなどの活動に参加した人は10.4%。

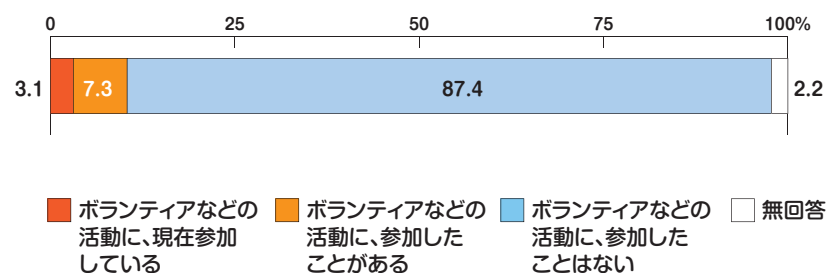
最近5年間で、高齢者を支援するボランティアなどの活動に「現在参加している」人は3.1%、「参加したことがある」人は7.3%で、参加経験率は10.4%でした。

年齢別にみると、60歳以上で参加経験率が他の年齢層より高く、70歳以上では「現在参加している」人も1割を超えています。

自治会の加入状況別にみると、加入している人の方が加入していない人より参加経験率が高くなっています。

高齢者支援ボランティアなどの活動の参加経験

N=1,764



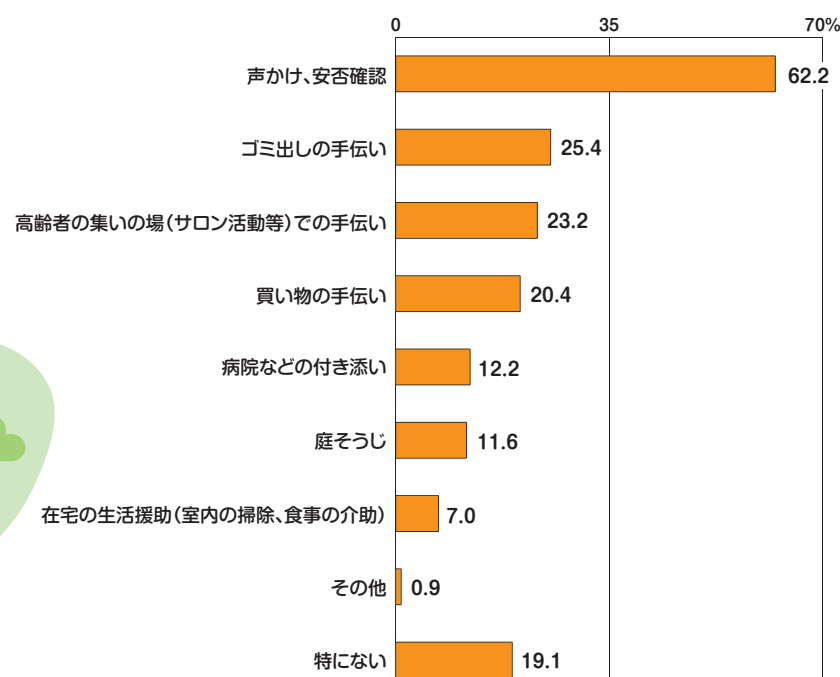
高齢者へのちょっとした手助け等で取り組むことができると思うことは「声かけ、安否確認」が62.2%で1位。

高齢者へのちょっとした手助け等の支援で取り組むことができると思うことでは、「声かけ、安否確認」が62.2%と最も高く、「ゴミ出しの手伝い」「高齢者の集いの場（サロン活動）での手伝い」「買い物の手伝い」が上位に続いています。

年齢別にみると、年齢が低い層では「買い物の手伝い」「病院などの付き添い」で高くなる傾向にあり、年齢が高い層では「庭そうじ」が高くなっています。

取り組むことができる地域での支え合い活動

【複数回答】 N=1,764



住民参加による地域での支え合い活動への参加意向は45.5%。

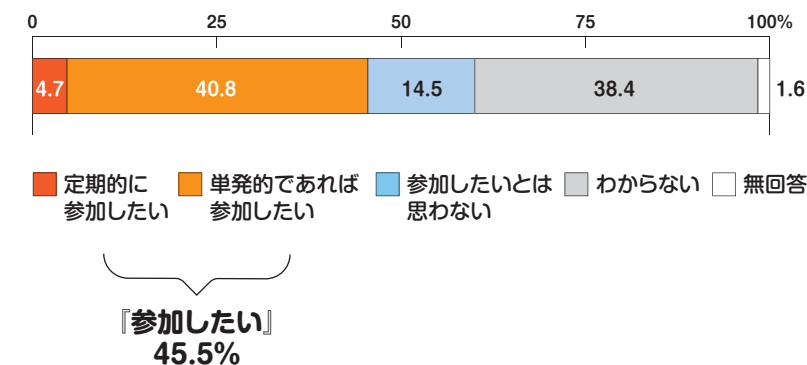
今後、住民参加による地域での支え合い活動に「定期的に参加したい」人は4.7%、「単発的であれば参加したい」人は40.8%で、参加意向を持っている人が45.5%でした。「参加したいと思わない」人は14.5%でした。

性別にみると、女性の参加意向が男性より8.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、参加意向ではあまり差はありませんが、「定期的に参加したい」では20歳代と70歳以上が他の年齢層よりやや高くなっています。

地域での支え合い活動への参加意向

N=1,764



「活動の実施や内容の情報提供」が29.8%で1位。「参加のきっかけづくり」「活動費の支援・援助」が上位に続いています。

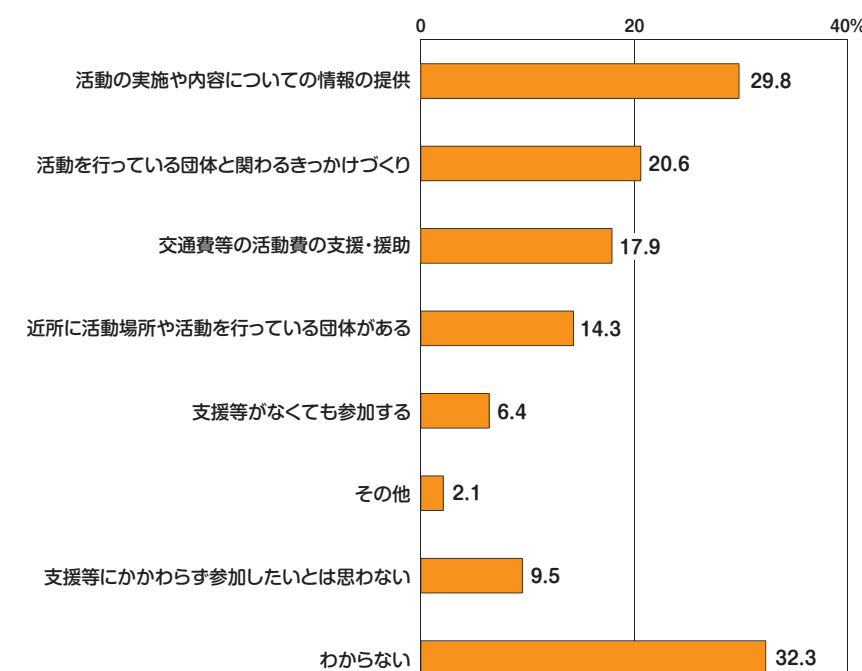
どのような支援や環境等があれば、地域での支え合い活動に参加したいと思うかをたずねたところ、「活動の実施や内容の情報提供」が29.8%で最も高く、「参加のきっかけづくり」「活動費の支援・援助」が上位に続いています。

性別にみると、女性は「活動内容などの情報提供」で男性より4.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年齢が下がるほど「参加のきっかけづくり」「活動費の支援・援助」が高くなっています。

支え合い活動に参加するための支援や環境

【複数回答】 N=1,764



防災

地域の自主防災組織の認知度は37.6%。

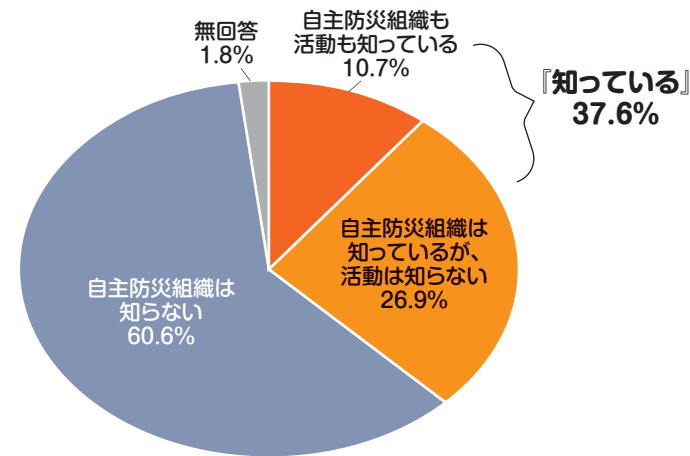
地域の「自主防災組織も活動も知っている」人は10.7%、「自主防災組織は知っているが、活動は知らない」人は26.9%で、自主防災組織の認知度は37.6%でした。

年齢別にみると、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向にあります。

自治会の加入状況別にみると、加入している人の方が加入していない人より認知度が高くなっています。

自主防災組織の認知

N=1,764



※「自主防災組織」とは…

校区コミュニティ組織などを母体として、災害時には住民がお互いに協力しあいながら初期消火、救出活動などの活動を行う組織です。

災害時の避難に支援が必要な人が「災害時要援護者名簿」に登録できていることを知っている人は15.6%。

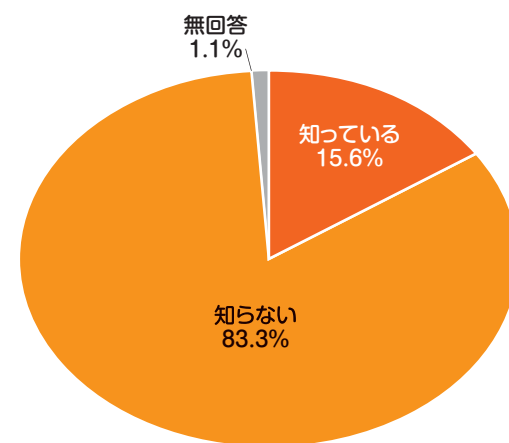
災害時の避難に支援が必要な人が「災害時要援護者名簿」に登録できていることを知っている人は15.6%でした。

年齢別にみると、年齢が上がるほど「災害時要援護者名簿」の認知度が高くなっています。

自治会の加入状況別にみると、加入している人の方が加入していない人より認知度が高くなっています。

災害時要援護者名簿の認知

N=1,764



久留米市では、介護が必要な高齢者の方や障害をお持ちの方など災害発生時に自力または家族の協力による避難が困難な方に、災害時要援護者名簿に事前に登録していただき、市と地域等がその情報を共有しておくことにより、一体となって避難情報の伝達や安否確認などの支援を行う取り組みを推進しています。

公共交通機関

ふだんの生活で公共交通機関を月に1日以上利用している人は33.7%。

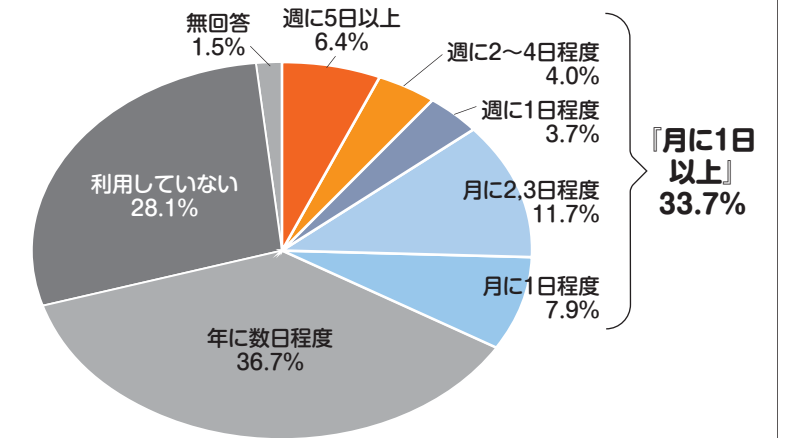
ふだんの生活の中で鉄道、バスなどの公共交通機関を「月に1日以上」利用している人は33.7%で、一方「利用していない」人は28.1%でした。

年齢別にみると、「月に1日以上」が20歳代で49.4%、70歳以上で37.3%と他の年齢層より高い利用状況になっています。

公共交通機関の利用目的は、全体では「飲食や娯楽、レクリエーション」が46.9%、「通勤・通学」が31.5%で上位で、70歳以上では「医療・保健施設への通院」が40.0%と他の年齢層より高くなっています。

公共交通機関の利用状況

N=1,764



「バス停でのベンチや屋根などの整備」が38.7%で1位。70歳以上の高齢者では「移動制約者(自動車を運転できない人)への利用補助」が1位。

高齢になっても公共交通機関を利用するために求める取り組みでは、「バス停でのベンチや屋根などの整備」が38.7%で最も高く、「移動制約者(高齢者など自動車を運転することができない人)への利用補助」「駅付近の駐車場の整備」が上位に続いています。

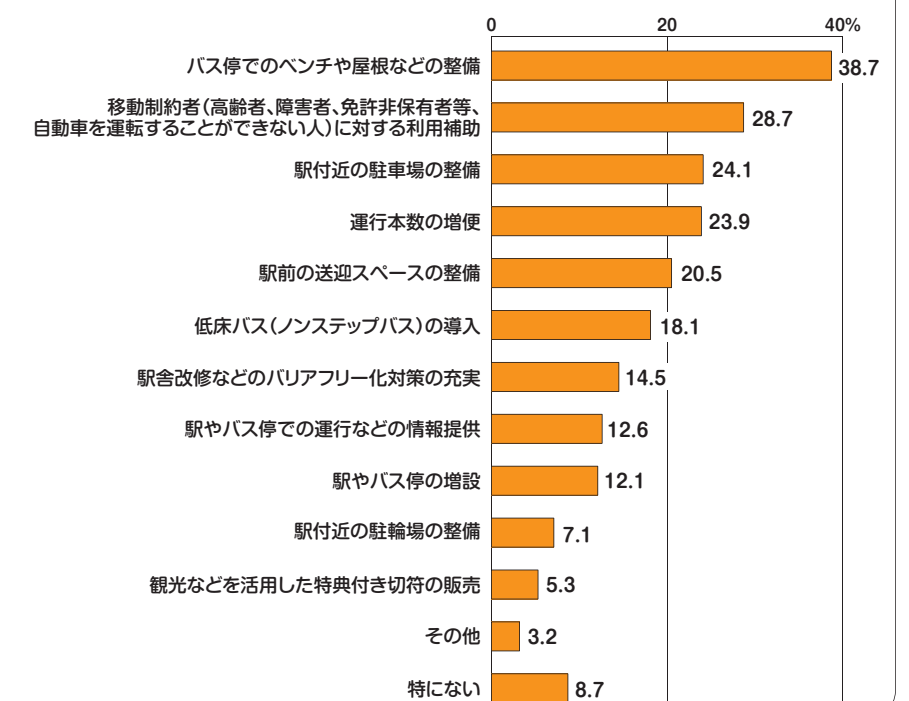
年齢別にみると、年齢が下がるほど「バス停でのベンチや屋根などの整備」が、年齢が上がるほど「移動制約者への利用補助」が、それぞれ高くなる傾向にあります。

年齢や利用状況などに応じた公共交通機関の環境の整備と利便性の向上が求められています。



公共交通機関の利用促進のための環境整備

【回答は3つまで】 N=1,764



終末期医療

療養生活を送り最期を迎えたい場所は「居宅」が46.5%で最も高くなっています。

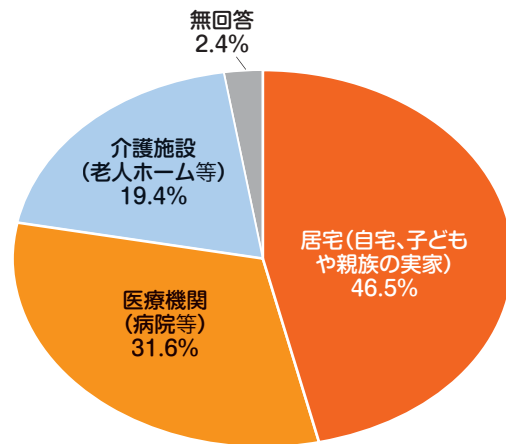
病気などで治る見込みがない状態になった場合に、療養生活を送り最期を迎えたい場所をたずねたところ、「居宅」が46.5%で最も高く、「医療機関」は31.6%、「介護施設」は19.4%でした。

性別にみると、男性は「居宅」が女性より8.2ポイント高く、「介護施設」が6ポイント低くなっています。

年齢別にみると、年齢が上がるほど「居宅」は低くなり、「医療機関」「介護施設」が高くなる傾向にあります。

最期を迎えたい場所

N=1,764



安心して居宅で療養し、最期を迎えられると思う人は12.8%。

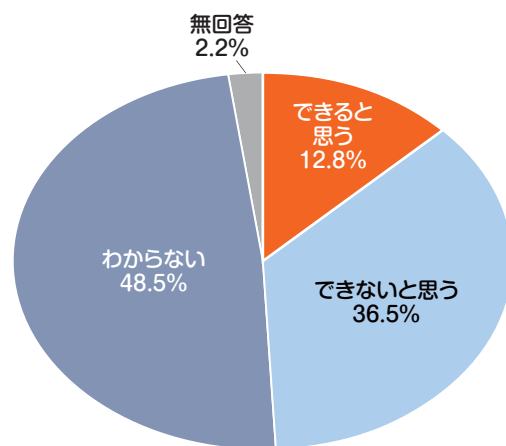
自身や同居の人が人生の最終段階を迎えた場合に、安心して居宅で療養し、最期を迎えることができると思うかをたずねたところ、「できると思う」が12.8%、「できないと思う」が36.5%で、「わからない」が48.5%でした。

性別・年齢別にみると、男性は60歳代で、女性は50歳以上で「できないと思う」が他の年齢層より高く、男女とも40歳代以下では「わからない」が5割を超えています。

「できない」「わからない」と答えた理由では、「介護する家族に負担がかかる」が66.2%で最も高く、家族状況別で単身の人では「介護できる家族がない」が最も高くなっています。

居宅で最期を迎えられるか

N=1,764



超高齢社会に向けて取り組むべき施策

特に取り組んで欲しいことは「高齢者福祉・介護サービスの充実」が50.9%で1位。「高齢者などが円滑に移動できる公共交通の環境整備」「事故やけがの予防、犯罪の防止」が3割を超えて上位。

超高齢社会を迎えた今、久留米市は、「人と人が支えあい、住み慣れた地域で健康・安心に暮らし続けられるまち」を目指している中で、今後、どのようなことに特に取り組むべきだと思うかをたずねたところ、「高齢者福祉・介護サービスの充実」が50.9%で最も高く、「高齢者などが円滑に移動できる公共交通の環境整備」「事故やけがの予防、犯罪の防止」が3割を超えて上位に続いています。

性別にみると、男性は「事故やけがの予防など」が女性より高く、女性は「高齢者福祉・介護サービスの充実」「公共交通の環境整備」が男性より高くなっています。

年齢別にみると、20歳代で「事故やけがの予防など」「ユニバーサルデザインのまちづくり」、40・50歳代で「高齢者の就労支援」「公共交通の環境整備」、40歳代以上で「高齢者福祉・介護サービスの充実」、70歳以上で「災害時要援護者の支援」が他の年齢層より高くなっています。

高齢化が進行していくなかで、医療という久留米市の強みを生かしつつ、それぞれの地域や家族の状況に応じた高齢者の支援策が求められています。

超高齢社会に向け取り組むべき施策

【回答は5つまで】 N=1,764

